

第2回「(仮称) 町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」検討委員会 会議録要旨

【会議日時及び場所】

日 時 2016年7月1日(金) 10:00~12:00
場 所 町田市役所 2階市民協働おうえんルーム

【出席者】(敬称略)

■委員

凶司 直也(委員長)、柳沢 厚(副委員長)、老沼 敬助、中丸 康明、市川 孝、田中 英夫、山崎 凱史、岸 由二、新井 英夫、間仁田 修、宮下 徹

■事務局

荻原北部丘陵担当部長、北部丘陵整備課廣瀬課長、星担当係長、中川担当係長、伊藤主任

■傍聴者

無し

【資料】

次第

(資料1) 第1回検討委員会での主な意見

(資料2) (仮称) 町田市北部丘陵活性化計画アクションプランの位置づけ

(資料3) (仮称) 町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン重点事業候補の検討について

【議事要旨】

- ・事務局より前回の主な意見、アクションプランのイメージ、アクションプランの重点事業候補について、説明を行った。
- ・アクションプランの重点事業候補について2つのグループに分かれて検討を行った。

【会議内容】

1 開会あいさつ

経済観光部北部丘陵担当部長より挨拶

2 議事

(説明)

- ・前回の主な意見
- ・アクションプランのイメージ
- ・アクションプランの重点事業候補

上記について、事務局から説明

(意見交換)

- ・小山田・小野路地区の2つのグループに分かれ、意見交換

3 その他

第4回検討委員会の日程決め

4 閉会あいさつ

■意見等

【配布資料に対する質問、進め方】

(委員)

- ・小山田地域では、市がこれまで実施してきた事業等に対して不信感・疑問がある。市は見直しを行ってから事業を進めるべきだ。

(委員)

- ・小山田地域での付き合いは30年ほどになるが、地元の中でも意見が分かれていると認識している。
- ・計画への反映については、もっと広域的な視点を加えるべきである。町田市では北部丘陵地域しか見えていないことが問題である。周辺の自治体を見渡せば、東京都は北部丘陵のみどりを三浦半島とつなげようと考えているし、横須賀市においては平成30年三浦半島国営公園構想を立てており、実現に向けて動いている。町田市も八王子市から三浦半島までの広域的なみどりのつながりの中の一部として北部丘陵地域を捉え、その大きな流れをしっかりと受け止めた計画としてビジョンを書き込むべきである。多摩から三浦にかけてみどりのつながりを示した図版を示すべきである。政治を動かすためには、地域内の小さな議論の積み重ねだけでは難しい。

(事務局)

- ・広域ビジョンについては調べて図として提示していきたい。
- ・小山田地域では、様々な意見が出ていることは認識している。長期的な視点としてではなく、短期的にすぐに始めることとして今回のアクションプランを考えているため、承知おきいただきたい。

(委員)

- ・これまでのフィードバックについてと、進め方や検証についてのご意見と認識する。アクションプランの検討ではどのような進め方、どのような検証をすればよいかを意見いただきたい。
- ・広域連携についても、計画に反映することにした。

(事務局)

- ・今回は小山田地域、小野路地域の2グループに分けて検討したい。

(委員)

- ・検討会の開催回数が少ない。短い時間の中で検討を進めるためにグループを2つに分けているが、全体で議論すべき内容である。

(委員)

- ・小野路、小山田の緑は全く別物である。今回は試しに地域に分けて身内通しで議論を進めてもよいのではないかと。その議論の結果、次回どのようにしたらよいかを考えたらよい。

(委員)

- ・今回は、2つにグループを分けて検討しようとして提案した。全体で議論することも必要だと思うが、今回は、委員の方からたくさん意見いただけるように、グループに分けている。
- ・グループにわかれて1時間を目途に議論していただきたい。

【意見交換 Aグループ】

(委員)

- ・私は小山田地域についてよく知っているが、現状を知らない部分もある。お互いに現状を共有しないまま、自分が良く知っている部分だけについて話しあってもよくないので、委員方から現状がわからない部分について情報をいただきたい。
- ・まず、小山田緑地の拡大予定地は小山田地域に入るのか。

(事務局)

- ・小山田地域に入る。

(委員)

- ・次に、西山中の現状。山林が乾燥してしまって、山火事が起こるのではないかと心配している。誰がどうやって防災管理するかを決めなければ、危険である。
- ・源流保水の森について、我々は今、源流と北の谷と野中谷戸をお世話しているが、将来的には地域ができる場所は地域がやった方がいいと考える。例えば北の谷であれば「山つつじの里」で田中谷戸街づくり協議会がおやりになればいい。田中谷戸は防災上極めて危険なところなので率直に言うと市民が手を付けない方がいいと考える。広島のと砂災害のようなことを起こさないよう、町田市が全力で動くべきである。市民が下手に手を付けると責任問題にもなる。

(委員)

- ・地域の住民は「北部丘陵地域活性化計画」に基づく活動を、全く把握していない状況である。
- ・西山中谷とは全く歩けない状況である。田中谷戸側に畑は多少残っているが、その他の地域、川が入っているところに農家はいない。

(委員)

- ・活性化計画で示されている大善の拠点について、以前、適地を提案、紹介したことがあった。市の担当者も好感触であったが、その後地主と接触した様子がない。現在は別の方が借りてしまっている状態。北部丘陵整備課全体で予算はかなりあるのではないと思うが、大善地域で事業が進んでいる実感はない。
- ・新規就農者向け農地の為の農道整備は進めているが、地域住民に対する還元が少ないため居住者は納得していない。
- ・一軒でも多くの地域居住者が残って住み続けられるための事業を優先して実施すべきである。最初にやってほしいのは、小山田緑地 150ha の中で大山寺が 10ha、国際ゴルフ場が 30~40ha ある。小山田緑地の拡大を諦める代わりに駅から近い場所と取り換えて、小山田緑地の延長を（望む）。そこでみんなが良い場所だなど。東京都の予算で。
- ・そもそもの始まりは、農業中心のまちづくりということで権利者の権利は全部奪って、農業やる人なんていないのに農業振興区域を指定したことである。あれが元で、地域住民は行政に不信感を抱くようになった。
- ・東京都の小山田緑地の拡大については、大善地域の居住者は、拡大予定地に組み込まれたいと考える人が多いと思う。

(委員)

- ・自分の考えでは、町田市は西山中と大善地区で面白い土地画整理考えればいい。その時に大

善地区の人たちが自分たちの住みやすいような地域計画を自ら進んで考え、その際に一緒に西山中谷戸も含めて面倒見るなどの大きいことを考えてもよいのではないか。

- 例えば、都道 155 号線の計画は白紙に戻して、その予算を使って現道を使用しやすくしつつ土地地区画整理事業をする可能性はあるのではないか。

(委員)

- リニアの残土について、農地整備など公共事業に対しては、残土の埋め立て費用を出さないという建前がある。自分は、町田市が動けば国も動くのではないかと感じている。
- リニアの担当の大臣にお会いした際、「地域が積極的に動かなければ先に進まない」と言われた。

(委員)

- リニアは JR 東海の管轄であり、一企業の事業である。(埋め立て費用の公費が出る事はないのではないか。)

(委員)

- 地域が主体的に動くということであれば、大善地区とこの辺りの住民が自分の暮らしを考えて住む場所も考えて、火が着いたらおしまい西山中もまとめて土地地区画整理で困ってしまえば一括処分できる。「あそこ(西山中)の今後の責任は地域が背負います」ということであればできない話ではないと思う。

(事務局)

- 中長期的な話はあると思うが、アクションプランの中では短期的な事業を位置付けていきたい。

(委員)

- ぐずぐずしていると、将来、多摩丘陵をおいて、三浦半島だけが指定されるということは有り得る。大規模なビジョンや土地利用を考え、「土地地区画整理をもう一度試みても悪くないかもしれない」などということも意識して話をしないと、地域住民が追い込まれてしまう。

(事務局)

- 「それを仕掛けることによって、10 年後 20 年後、どういうことが起きていくのか」といった事業を今はアクションプランで詰めていきたい。

(委員)

- 異存はない。ただし、「将来、大規模な土地利用の再調整は絶対ない」のではなくて、「今何をすれば地域の人々が将来を明るく考えることができるか」を考えて案を出してもらいたい。農振法による新しい農地、或いは土地地区画整理事業、場合によっては局所的な市街化だっあっていいと考える。

(委員)

- 例えば、大善地区の地域の方たちが組合を作って、仮に町田市などから資金が入った場合、西山中の危険な地域の森林管理を担う NPO や組合などができる可能性はあるのか。

(委員)

- 地域の定年を過ぎた人などに、「地域のために働かないか」と声をかけ、来年度くらいから地域の人が道路の脇の緑地を管理することから始めて、北部丘陵の市有地の管理に入っていく方

向を考えている。

(委員)

- ・現在のNPOの財務状況では源流の他のエリアの管理をするのは無理であるが、それぞれの場所で地域の方が緑の世話をして安全確保をしていく動きがあれば、我々のNPOも協力できるかもしれない。小山田はそういうことが始まらないと何も始まらないと思う。

(委員)

- ・現在、「過去に頓挫した土地区画整理事業をやってほしかった」と考えていては、前に進まない。資金についても、「市が払えないのでは都からもらえばいい」という話もあったが、そう簡単に資金を調達できないのではないか。
- ・どうやったら自分たちがやっている仕事をこれから担い手として少しでも恩恵を受けて地域を維持してけるかと考えれば、会議は進むのではないか。
- ・具体的には、地元の農作物の販売ができる売り場を協働でつくることや、年収300～500万円程度でもいいので新たな担い手を呼び込む事が考えられる。

(委員)

- ・北部丘陵では、どんなに農地をいじったところで農業は成り立たない。

(委員)

- ・小山田桜台で娘の同級生が新規に就農したが、「作物が売れずに大変だ」という話を聞いた。また、我が家は2,000㎡程度の農地を借りて小山田桜台でサトイモ作っていたことがある。最初は人気で、よく売れていたのに2年ほどでみんな飽きてしまい、売れなくなった。新規就農は難しいのではないか。

(委員)

- ・農業は担い手が育つわけではないし、担い手を育成する事業を市は実施しているが、実際に担い手が作った作物が売れて事業として成り立っているかと考えると、現段階では成り立っていないのが現状。1年間で100万円売れるのも大変。北部丘陵の空地を使える農地(採算とれる農地)にしていくためには相当なエネルギーが必要になると思う。まず道がないので、大型トラクターが入れない。人力で何かをやらなければならないとなると、そこをまずやっていかないと農地としての利用になっていかない。
- ・だからといって市は何もやらなくていいという事ではなく、道づくりなど、地元と協力して進めていく必要がある。

(委員)

- ・市街化調整区域には、今後子どもが住まないような住宅たくさんある。630号線や隣接する土地を持っている人はたくさんおり、沿道に移動したいが、自分の家があると引っ越しできない。分家住宅であれば建つが、自分の家を壊して場所を変えることはできない。少なくともそういうところだけでも解決できるとよい。

(委員)

- ・長期的に土地区画整理事業を動かしていく可能性は十分にあるのであろうが、ここ2～3年以内にまず何を実行するのが効果的であるのかを考えたい。一つは、中丸委員がおっしゃったよう

に定年後の方々を募って区画整理を実現していくということもあるであろう。

- ・その他に、田中委員から農地に新たな担い手を寄せていくといった意見があったが、それに関してはどうな意見をお持ちか。

(委員)

- ・町田市の北部丘陵整備課、東京都は、北部丘陵に農業、林業、観光業が生業として成り立つと勘違いしているが、小山田地域はそんな状況ではなく、小山田の緑は危険な緑であるという事を認識すべきである。藪になっている危険な農地では、土砂防災などの危険を回避する必要がある、防災のための予算は町田市が出すべきである。
- ・安全の確保と同時に、緑の魅力化を図ること、自然の豊かさを維持する（多自然）必要もある。
- ・誰がどんなお金でそれらの活動を実行するかが課題。「NPO鶴見川源流ネット」は、理事の持ち出しで成り立っている現状。関係者は高齢化している。NPOが消滅しないうちに、地元の方に出てきてほしい。私の意見であるが、中丸委員などの地元の方が地元の方に声をかけて担い手を募り、人が通る安全な道づくりや道の脇に花を植えるといった活動を通し、危険回避と緑の魅力化を図る活動をしていく事が考えられる。こういった取り組みには、市が担い手に日当5,000円程度支払えるような予算をつけて全力で応援してほしい。地域の人がお金を稼ぎながら山林を維持していくことに支援していただきたい。
- ・それが無理なのであれば、町田市の観光部局とNPOを組ませてほしい。大善周辺にマイクロバスで遊びに来てもらい、一日10万円程度は稼ぐ事ができる。そのお金を地元組織の活動費にする事も考えられる。
- ・鶴見川源流の北の谷は是非田中委員のまちづくり協議会で取り組んでいただきたい。ヤマツツジの里はもっとつつじを植えても良い。ただし、地元の方が組織を作って管理運営をして稼ぐ組織を作ってほしい。
- ・小山田地域はこのように分割して主体を作って管理していかなければ維持管理は無理ではないか。外から新規就農者を呼んで農地が整理される可能性はないと思うので、しかるべき助成金や企業からの支援を受けた上で観光に徹するのが良い。
- ・大善地区には町内会がある。田中委員のまちづくり協議会はNPO作ることも考えられる。「自分がやる」という責任主体ができないことには何も始まらない。

(委員)

- ・他の行政では環境保全などを地域の自治会に委託をしてやっている仕組みもあるが、それを小山田地域で展開する可能性はあるのか。

(委員)

- ・金額によるのではないか。

(委員)

- ・駐車場ができて倉庫があれば活動拠点になりうる。源流泉付近の拠点は地元からの反発が強くて難しいため、野中谷戸の都道155号線北の大きな湿原地帯あたりに移動するのが良いのではないか。大善地区や田中谷戸の北の谷に関しても取り組みの主体ごとに拠点を設け、場所をつめていくと現実的になって意見交換もできるのではないか。主体が決まっていなくても意見交

換しても、ただ様々な意見が出るだけで進まない。

(委員)

- ・ 次回の進め方について、例えば地図を広げて場所を確認しながら、「ここをどうするか」「どんな組織が作れるか」といった議論をするのはどうか。

(委員)

- ・ 私の提案としては、鶴見川源流保水の森については町内会などの担い手が出てくるまではNPOが手入れするが、可及的速やかに最低限北の谷は地元で手入れしていただきたい。必要であれば、田中谷戸の源流も地域で手入れしていただきたい。町田市から遠い野中谷戸は、企業も学校も応援してくれているので、我々のNPOで頑張っていきたい。協働で使える拠点をつくりたい。

(委員)

- ・ 去年から下小山田地区全でのまちづくり特別委員会を作り、町内会活動＝まちづくり委員会活動という組織となった。「上小山田の町内会とも一緒に考えていこう」ということで進んでいるが、「田中谷戸まちづくり協議会」の取組みが上小山田町内会に認識されておらず、活動内容が見えない部分がある。「田中谷戸まちづくり協議会」を上小山田町内会の下部組織に位置付けると、活動内容が広く認識されるのではないか。
- ・ 大善地区としては、すぐにNPOはできないし、下小山田町を巻き込むこともできないが、当面は今までは年に2回くらい人を集めてやっていた緑地の管理を日々少しずつやっていけばもっと魅力的にできる。

(委員)

- ・ 田中谷戸まちづくり協議会の活動は毎月公開している。まずインフラ（道路）をつくり、次に住環境を整える、三番目に緑の保全という柱を立てて行動している。
- ・ 町内会は主要メンバーが定期的に入れ変わってしまうという点で考え方が一定しない場合がある。街づくりは損得勘定で動くのではなく、本当に地域を良くしたいと考えている人が担い手となるべきである。

(委員)

- ・ 地域の活動の受け皿は様々なパターンがある。大善地域のように地域町内会と一丸となって取り組める場合もあれば、田中谷戸地域のようにそうもいかない場合もある。「様々な担い手がいる中で、どのように進めていくか」ということであろう。

(委員)

- ・ 町内会の活動と協議会の活動の棲み分けは可能である。例えば上小山田町内会は、「道路や鉄道がどこにできるか」ということに関心があるのであれば、鶴見川源流泉の広場の管理などを町内会が担うことが考えられる。街づくり協議会の関心が山林であれば、北の谷をツツジの谷にして町田市の観光部局と連携してお金を稼ぐことも考えられる。そういう調整は可能なのではないか。
- ・ 実際に地域を動かすためには、それぞれが一般論を言いあう議論をするのではなく、「私はここをやる」と宣言してすべてに責任を持つことから連携が始まる。まちづくり協議会の方がこの委員会に出席されていて、自由に動けるのだから、まずは先に始めていってはどうか。

(委員)

- いずれにしても、次回は誰がどこで何をするかを話し合いたい。おそらく「町内会の中の組織が実行する」、「有志の団体が実行する」など、様々な担い手がいると思う。次回は少し具体的に考え、場合によっては町内会などともかけあったりしながらやりたい。本当はこのレベルの話を町内会でも話した方が良いのかもしれないが。そこは事務局と調整する。
- 委員の皆さんから地域の皆さんにもお声掛けいただき、市が現場に入っていく際の場づくりを進めていただきたい。

以上

【意見交換 Bグループ】

(委員)

- ・資料3 p4～6を中心に意見を頂きたい。

(委員)

- ・里山交流館を成果として挙げているが、開館するまではちゃんと経営できるかはわからなかった。結果としてよい結果が得られたため、新たな拠点をつくる際には里山交流館を参考に進めればよいのではないか。
- ・どこを対象に活動を行うかをはっきりさせるために、民有地と市有地、里山の状況がわかる地図が必要だ。
- ・里山交流館の周りには、小野路宿通りの南側の竹林や切通しから旧鎌倉街道沿いの竹林等、まだ手つかずの竹林等がある。きちんと歩ける道として整備すればフットパスのコースになるだろう。また、その竹林を活用して何か生み出せないかを考えている。
- ・市有地と民有地をうまく組み合わせて拠点づくりを促し、里山を手入れ・保全しながら観光へつなげる。そして、地域にお金が落ちる仕組みづくり、その3点が小野路の活性化に必要なことであると考え。

(委員)

- ・町田市観光コンベンション協会ではウォーキング 1 回／月に実施しており、北部の丘陵地域では、古道の研究者と一緒に歩いたりしている。
- ・ウォーキングする中で、市有地と民有地の区別がつかないことが課題であると感じている。民有地など入ってはいけない場所がわかりにくいいため、標識などをきちんと設置し、入ってはいけない場所がわかるとよい。協会で企画するものは、ガイドが付き、入ってはいけない箇所には入らないようなコース設定をするが、フットパスの本を見ながら個人で歩く人は、民有地に立ち入ってしまいトラブルになる可能性がある。しかし、フットパスなどなかなか入りにくい場所に入れるのが、他の観光地とは異なる北部丘陵のよさである。

(委員)

- ・小野路を訪れた人に対し、ガイドがつく仕組みとなっているのか。

(委員)

- ・協会では有料で運営しているため、ツアーが基本である。個人で訪れる人に対しては、ガイドがつく仕組みにはなっていない。
- ・協会に所属しているガイドは 30 人程度いるが、動けるのは 5～6 人である。いずれも地元の人であり仕事をしている人が多いため、2～3 か月前から予定を組んでもらっている。そのため、単発的にはお願いしづらい。

(委員)

- ・里山交流館にはフットパスの地図を置いており、訪れる人に配布はしている。現在、里山交流館でも案内対応できるように、ガイドを一人育成し、体制を整えようとしているところ。

(委員)

- ・観光地とするには、トイレ、駐車場等の拠点が必要である。北部丘陵では里山交流館しかないため、駐車場、トイレに加え、地域の産物が買えるなど地域にお金が入る場所が欲しい。

(委員)

- ・NPO 結の里では、奈良ばいの谷戸の1区画で活動している。活動エリアの中には民有地（小田急電鉄の土地）があるのだが、作業を進めるにあたり、そこの調整が市を介してできないため、動きにくい。

(委員)

- ・そういう点、プラットフォームがあれば、調整しやすいのではないか。

(委員)

- ・小野路地域では駐車場の問題がある。市へは駐車場を確保してほしいとお願いしており、過去に地元の方と折衝してもらったこともあるが、実現しなかった。今のところ駐車場はなく、イベント時等に小山田緑地の駐車場を借りている。また、市が用意した駐車場として浅間神社近くにも8台くらい止められるところがあるが、接道状況が悪いため、案内しづらい。
- ・下小山田のリサイクルセンター計画の協議会の話では、リサイクルセンターの建替えにあわせ道の駅をつくるという計画があると聞いた。そこに拠点ができしまうと、北部の丘陵地域内には拠点をつくりにくくなるのではないかと懸念している。

(委員)

- ・凶師・小野路歴史環境保全地域では、希少価値のある植物等があり入ってはいけない場所となっているが、個人で入ってしまう人がいる。入れる場所、入れない場所をしっかりと分ける必要がある。

●市有地から収穫できる産物の販売について

(委員)

- ・ならばい谷戸では、収穫したものを販売することができないと聞いた。それならば、直売所をつくっても意味がないように感じる。

(委員)

- ・市有地から採れる産物を販売することに、市としてどんな問題があるのか。

(事務局)

- ・現在、NPOとは保全活動に対して業務委託を結んでおり、委託費が支払われている。そのため、市有地から収益を上げることは難しい。

(委員)

- ・現在、NPOでは市から助成金をもらって活動している。とれた産物を販売するならば、その収益分を助成金から減額するといわれている。

(委員)

- ・奈良ばいの谷戸では、活動する時にはボランティアを募っており、ボランティア体験を踏まえて年会費1000円/年を払って会員になってもらっている。収穫したものを会員に還元し、収穫の楽しさを与えてあげないと、会員として残ってもらえない。

(委員)

- ・現在は、奈良ばい谷戸でとれた米、いも、大豆、小麦等を学校給食の食材として提供している。

(委員)

- ・里山交流館では食材を自分達で購入し、自分たちで販売しているため問題ない。

(委員)

- ・活動団体が助成金をもらっている土地で収穫したものを売るのは難しいことは理解できるが、例えば、放っておくと荒れてしまう里山をボランティアにお願いし、そこでとれた産物の処理について市でボランティアに提供することでよいとすればよいことではないか。契約内容や市の体制の見直しで変更することができないか、検討したらよいだろう。

(委員)

- ・市有地から採れた産物を販売するなら助成金を減額するとのことだが、現在位は、NPOに委託しているから委託費で保全することが可能だが、市が直接維持管理することを前提に人件費等を算出すれば助成金でまかなうことは難しいことくらいわかるだろう。市は、管理している市有地からとれる産物の販売利益を保全活動の足しにする事くらい認めるべきだと考える。
- ・活動団体が自由に活動費を捻出できる仕組みを何とかできないかと考える。

(委員)

- ・奈良ばいの谷戸では、自然農法を取り入れたオーガニックにこだわってきた。結の里では、里山保全が第一であり、そのための畑だと考えている。その土地でとれた産物で収益を上げてもよいことになると、利益追求型になり農薬を利用する方に傾くかもしれないため、一概に収益を活動費に充ててもよいとすることが良いとは限らない。

(委員)

- ・小野路でつくっている野菜もできる限り農薬を使わずやっているため、来訪者から新鮮でおいしいと評価を得ている。だからこそ、お客がついてきたので、農薬をなるべく使わずに続けることが大事だと感じている。

(委員)

- ・農薬使用に対する共通ルール等を徐々に増やすことで、小野路ブランドとして確立できるとよい。加えて保全活動と融合できるようになれば理想的である。

(委員)

- ・無農薬で育てると形が悪い、大きさが小さいなど、農協の規格サイズに合わせることができないため、農協ルートで販売することは難しい。無農薬野菜を好んで購入する人もいるため、無農薬野菜を販売する人たちの場所を確保してあげたいと考える。

(委員)

- ・里山交流館での販売スペースは限られているため、研修農場を終えた人の販売場所を確保してあげたいが、スペースとの兼ね合いで確保できないでいる。今後、ネット販売することも視野に入れていこうと思っている。

(委員)

- ・そもそも、研修農場を終えた人は農協に加入できないなど、問題がある。本業が農家でないために組合員になることができない。

(委員)

- ・市の農地斡旋制度はどのようなもので、実績はどのくらいか。

(事務局)

- ・ 民有地の遊休農地や市有地で、営農したい人に貸し出す仕組み。現在、農地斡旋で農地を借りているのは研修農業卒業生も含め 100 名弱くらいでないか。小野路も小山田にもあつせん農地はある。

● 駐車場について

(委員)

- ・ 駐車場の問題がある。都立小山田緑地の駐車場を利用させてもらっている。

(委員)

- ・ 結の里に来訪するためには、小山田緑地とセットにしたルート設定とするようにしている。

(委員)

- ・ 駐車場に関して、どうして確保できないのか。

(事務局)

- ・ 駐車場については、市が民有地を購入する場合公示価格から算出した金額、土地を賃貸する場合でも固定資産税から算出した金額しか出すことはできない。その提示金額で了解がえられないと購入・賃貸できない。また、地目も農地だと農地法の関係で利用することが難しいなど、制約がある。

● 小学校の環境教育への活用について

(委員)

- ・ 市内の小学校ではバケツ稲を育てているが、米作りを知らない先生が困っている学校を時々見受ける。年に数回教えに出向いたらどうかと考えている。また、収穫後のわらも草鞋づくりにも利用できる。

(委員)

- ・ 市の教育委員会で里山教育のカリキュラムを組んでいけばよいと考える。市の南部の小学校では周辺に里山環境がないために、どのように教育したらよいかわからない先生がいるなど問題を抱えているようだ。

(委員)

- ・ 小山田地域などは、地域と小学校が連携し環境教育としてうまくやっている。北部丘陵地域はそうした、環境学習にふさわしい場所である。環境学習となる資源がたくさんある。

(委員)

- ・ 市の教育委員会で里山教育のカリキュラムを組むべきである。

● フットパスについて

(委員)

- ・ フットパスのルート地図があるようだが、多摩ニュータウンとつながっているのか。

(委員)

- ・ 市内全域にルートがあり、地域ごとにいくつかのルートがある。

(委員)

- ・ 市内を網羅しているが、多摩ニュータウンと連携したルートはない。そのため、周辺地域の

パンフレットを置くなどして対応している。北部丘陵へは多摩市、稲城市、相模原市等、周辺市からくる人が多く、町田市の人はい少ない。

(委員)

- ・小田急線からのアクセスが良いため、唐木田駅、多摩センター駅からアクセスする人が多い。

(委員)

- ・多摩ニュータウンとの連携が悪いと感じている。

(委員)

- ・結の里では、多摩市の東京都埋蔵文化財センターと連携している。古代から利用されているからむしという植物を奈良ばい谷戸で収穫できることから、お互いPRをさせてもらっている。

(委員)

- ・協会では、外から町田を見るということを企画しており、相模原市、八王子市、多摩市も含めたルート設定したりしている。お客さんは喜ぶ。

●プラットフォームについて

(委員)

- ・「(仮称)北部丘陵まちづくり推進会議」について意見を頂きたい。

(委員)

- ・具体的なプランニングを考えるなど、成果がでるような話し合いの場なら効果が見込めるが、会議のための会議は必要ないと思う。

(委員)

- ・北部丘陵地域内にサイクルロードはあるのか。オートバイや自転車のルートに設定されており、危ない。

(委員)

- ・サイクルロードはない。オートバイや自転車禁止にはなっていないが、推奨はしていない。

【全体】

(委員)

- ・各地域、どのような議論をしたかを発表頂きたい。
- ・Aグループは、地域の現況等の確認をした。今後2～3年の中で、誰がどこで何をすべきかを地図を見ながらボトムアップしていくべきだという議論が出た。今後の進め方について共通認識ができた。併せて、あいだをつなぐ主体が必要だという意見も出た。

(委員)

- ・地域の活動がそれなりに進展しているようだ。より適切に利用するための具体的提案が出された。
- ・フットパスについて、さらによいルートが開拓できそうである。ガイドがリードする場合は良いが、個人で歩く時に私有地に立ち入らないように、入ってよいところ入ってはいけないところのガイドが必要である。
- ・市有地の収穫物を販売できない点について。市有地で活動しているNPOは市から補助金をもらっている関係上販売できないという問題や、農地斡旋制度により研修農場を卒業した人は農業者として認められないために農協の組合員になれない、無農薬で栽培した農産物は農協ルートで販売することができない等の問題がある。
- ・学校教育のフィールドとして活用できるのではないか。教育委員会とタイアップして町田市南部の小学校も含めた里山教育を進めてはどうか等の意見が出された。

(委員)

- ・今何をしたら、将来明るくなるのかが議論されたと思う。農地をどう活用し、あがりをどう生かしていくのか、誰がやっていくのか。どのような農地利用がこの地域の望ましい姿なのか、視線を合わせていくことが大事だと感じた。
- ・地域ごとに話し合いの回数を重ねたほうが良いと感じている。今日の様子を事務局と共有化し、次回に備えたい。

【その他】

(事務局)

- ・第3回検討委員会は8月18日(木)10:00～。場所は追って連絡する。
- ・第4回検討委員会は、9月27日(火)に開催したい。

以上